

G 2 部会 研究の成果と課題

1. 指導計画の工夫について

(1) グループの実態に応じた指導計画の作成

○小単元終了後の習熟の時間の設定は、基礎基本を定着させる上で有効であった。

●設定した習熟の時間に限らず、前時の学習内容を導入で復習していくことが必要な場合が多いので、適宜復習タイムを取り入れていくようにしたい。

(2) 学び直しの時間の設定

○一人一人の理解度に応じた学習内容を提供したことで、つまずきの見られる児童への個別指導を充実させることができた。また、自力解決ができた児童には、学習への関心・意欲をさらに高めることができた。

●教科書をベースとした学び直しはできた。しかし、単元によっては、必ずしも児童の実態に応じた学び直しのための指導時数確保やプリントの用意ができないことがあった。プラスアルファの学び直しが必要な単元をしっかりと押さえておきたい。

2. 指導方法及び指導過程の工夫について

(1) 課題提示の工夫

○与えた課題から必要な条件を整理して提示したことが、確実な理解につながった。

●教科書をベースとして課題を提示することを前提としたが、提示する数値は、児童の実態に応じてその都度検討が必要となることもあった。

(2) 自力解決に導くための工夫

○ノートの取り方を身に付けさせることで、筋道を立てて考える力が向上してきた。

○自分の考えをノートにまとめる機会を多く取り入れて発表し合うことで、グループの中での学び合いができた。

○自分の考えを説明する際の段階を踏んだ言葉の使い方を指導したことが、学び合いを充実させるのに役立った。

●ケアレスミスが多く、自分の誤りに気付けないでいる児童が多い。今後も見直しの観点（検算の方法）の確認と、正確に計算できるようになるための計算量の確保が必要である。

(3) 児童の考えを生かした学び合いの工夫

○時間を確保することで、自分の考えをノートにまとめる力が向上した。自分の考えと友達の考えの違いや、友達の考えの良さに気付けるようになってきた。

●まだ自分の考えがうまくまとめられない児童が見られるので、児童の思考パターンを把握し、実態に応じた有効な支援を考える必要がある。

3. 評価の工夫について

(1) 一人一人の考えや学習状況を見取るための工夫

○児童の思考パターンをいくつか予測しておき、机間指導をしながらそのパターン別に児童の名前を記入する方法は、有効であった。

(2) 学びの振り返り

○学習のまとめとして気付いたことや分かったことを書かせることで、学習内容を整理する力が向上し、次の時間への学習意欲を喚起させることができた。

(3) 学習チェックカードの活用

●十分に活用しきれなかった。ノートに「自分の考え」や「感想」を書く活動と重複するのではないか。教師側もノートに目を通すことでチェックカードがなくても十分評価できたのではないか。